

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ブロッサムジュニア加古川駅前教室			
○保護者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月29日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数)	29
○従業者評価実施期間	2026年1月5日 ～ 2026年1月16日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職による専門的な支援を実施している。	作業療法士による「発達アセスメント」や、言語聴覚士による「構音スクリーニング」など、専門職ならではの評価ツールを活用し、利用者の特性に応じたきめ細やかな支援を行っている。	公認心理士などの専門職を新たに配置することで、様々な特性を持つ利用者様に対して、多面的かつきめ細やかな支援が可能となるため、早期に人材を確保し配置していきます。
2	課外活動が充実している。	夏休みなどの長期休暇や祝日の活動では、子供達に季節を感じてもらい、感受性を育むことを目的に、体験学習（宿泊）・施設（工場）見学・職業体験・地域交流などの活動を積極的に取り入れています。	長期休暇中・祝日の活動については、保護者様からアンケート（要望を伺い）を取り、その内容を反映したプログラムを取り入れることで、より一層の充実を図っていきます。
3	地域交流を盛んに行っている。	「子育てプラザ」「かわのまちほいくえん」「加古川公民館」などを活用した活動を通して、地域の方々と交流を深めています。また、近隣の保育園や就労事業所とも連携し、定期的に交流イベントを実施しています。	今後も地域の様々な施設との交流を深め、地域の皆さまにご協力いただきながら、子どもたちが健全に成長できる環境づくりを進めていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内での活動スペースが限られている。	指定基準に基づき、集団療育室・個別療育室それぞれの活動スペースは確保できているものの、児童6人以上で運動療育を行う場合には、集団療育室がやや手狭に感じられます。また、体調不良時の休憩スペースの確保にも課題があります。	大人数（6人以上）での運動療育は構造上の制約から難しいため、その場合は近隣の公園などを活用して運動療育を行っています。体調不良が生じた際の休憩スペースについては、仕切りを工夫するなどして確保していきます。
2	（放課後等デイサービス） 利用者は小学校低学年が中心となっている。	放課後等デイサービスの利用者は小学校低学年が中心であり、高学年以上の利用者が少ない状況です。そのため、低学年向けの療育プログラムが中心となっており、高学年向けのプログラム提供に課題があります。	低学年向けの療育プログラムの際には、高学年の利用者には先生役や職員の補助など、状況に応じた役割を担ってもらっています。また、療育内容については学年に応じて難易度を調整するなどの工夫を行っています。
3	職員の年齢層が若い。	専門職を含め、比較的若い職員が多いため、療育プログラムの提供においては経験値や対応の引き出しの面で課題があります。	今後、新たな人材を採用する際には、児童福祉業界での実務経験年数を考慮しながら、募集・採用活動を進めていきます。